

BB通信

1月 vol.05



×



2015年がスタートして約一ヶ月が経ちました。2年生は春の全国大会に向け調整中、チーム内の競争も激しくなっています。なによりグラウンドに立っている選手の「やってやるぞ」という表情が良いですね。2月1日(日)から練習試合がスタートしますが、「チャレンジ」を合言葉にプレーしてほしいと思います。1年生は単調な練習が続いていますが、この時期が本当に大切です。「我慢」しながら、何より大切な体作りに取り組むことが将来に必ず繋がります。自分と向き合って、日々の練習に励んで下さい。今年も選手の成長を第一に考え活動を進めていきます。保護者の皆様の支えが選手にとって大きな力を与えます。どうか今年も温かくチームを選手を見守って頂ければ幸いです。

「アジャストは20代から！！」

コーチ 阪長 友仁

人口は日本の10分の1、なのにメジャーリーガーは10倍！そんなドミニカ共和国で約2か月間野球指導の勉強をしてきました。想像以上に、いやいや想像を絶するほど、ドミニカの野球から学ぶことは多く、この2か月間ですべてのことを学べたとは到底思えません。それでも、今回の滞在で強く感じたことの一つは『野球のプレーは簡単ではない。だから時間をかけて学んでいくんだ。』という長いスパンで考えた指導です。

例えば、打者の例だとドミニカ共和国では12-13歳くらいから、木製バットで練習・試合を開始します。打撃練習は正面の近い距離からの投球(変化球の練習はなくストレートのみ)をインサイドアウトで力強く振りぬくことのみ。それだけを何年も続けて行います。打撃に関してはそれがしっかりできていればOK。10代のうちは変化球にとんでもない空振りをしていても全く問題なしです(練習していないので当然打てません)。

投手は力強いストレートをストライクゾーン(ど真ん中でもOK)に投げられれば十分。例え、ストレートのみしか投げられずに打たれたとしても10代のうちは問題なしです。

今回、21歳のニューヨーク・メッツ傘下のマイナーリーグでプレーするイアン・カルロス・ロドリゲス選手と話す機会を得ました。今、練習に取り組んでいることは何？と聞いたところ、『ストレートに対して強く振りぬくことはこれからもずっと練習を続けていくけど、今は変化球を打つことも練習を始めているんだ。ここからは色々な変化球にもアジャストしていくことを今学んでいるところなんだ。』と。

一方で、こちらはバリバリのメジャーリーガー、シカゴ・カブスの中継ぎエースであるペドロ・ストロップ投手(2013年のWBCドミニカ代表で8戦中3勝をあげて優勝にも貢献しています)とも話す機会を得ました。『僕は21歳から投手に転向したんだ。その時はストレートしか投げられなかったけど、それからカーブとチェンジアップを投げられるように練習して徐々に習得したんだ。10代のうちは例え打たれてもどんどんストレートをストライクゾーンに投げることができればそれで十分だよ。』とのこと。

確かに、打てなかったら悔しいし、打たれたら悔しい。でも、例えそうでもとにかく10代のうちに細かいことではなく、目先の勝利ではなく、持っている能力を存分に伸ばすことが将来の活躍につながっていくのだと改めて学ぶことができました。子どもたちが安心して思い切ってプレーし、能力を伸ばせる環境を作ることが大切だなと改めて実感しています。指導者・保護者だけでなく、日本社会全体で『子どもたちの未来のために』長いスパンでの育成にぜひぜひ取り組んでいきたいですね！

「勉強はやっておいたほうがいいよ」

「勉強しなさい」小・中学校時代、両親になんと言われたことか分かりません。なんと言われてもまったく勉強なんてやりませんでした。それなりに野球ができた私は高校・大学進学は悩むことなく進むことができました。高校3年生で野球を辞めた時、初めて「勉強しておけば良かった」と思いました。野球しかしてこなかった私にはその先の選択肢がなかったのです。18歳の私、学校の先生になって野球指導をしたくなってボンヤリ考えたことがありましたが、一瞬で頭から削除されました。(そこから勉強をすれば良かったのですが、その気もありませんでした)

選手には「勉強やっておけよ」と話すことがあります。それは自分の経験上、人生の選択肢を広げるという意味で選手に話しています。野球はプレイヤーとして30年、50年続けられるスポーツではありません。高校生で引退する選手、大学生で引退する選手、プロまで活躍してから引退する選手、人それぞれ異なりますが、その先の人生の方が断然長いです。野球をがんばっている選手に「がんばるな」なんて言いません。ただ、「野球だけが人生じゃないよ」ということは伝えたいです。

先日、BB塾の実学講座で話をしましたが、一日5分でも1分でもいいから自分の将来を考えてほしいという話をしました。「働くなんてまだまだ先だよ」と思っている選手が大半だと思いますが、高校を卒業して働き出す子もたくさんいます。選手達には、高校進学、大学進学、就職活動、その中で自分の選択肢を広げるためにも「勉強はやっておいた方がいいよ」と伝えたいです。将来、自分のやりたい仕事をして生き活きと働く人になってほしいと願っています！

選手に悩みごとがないと思われるコーチ 久富 恵介

「ケガから学ぶ」

冬季練習中、ケガで練習ができず苦しい思いをしている選手がいるかと思います。私もこれまで、ケガにはずっと悩まされてきました。大学時代は腰を痛め、4年間の中で野球ができたのは半年ぐらいでした。あとはずっと練習の手伝いをしたり、裏方の仕事をしていました。しかし今は、「ケガをしてたくさん学べるがあった。」と思っています。それまでは、何をすることも野球第一で、本を読んだり、野球以外のことに取り組んだり、野球以外のことを深く考えることがほとんどありませんでした。しかし野球ができなくなり、強制的に他のことをしたり、考える時間が増えました。その時に指導に関して色んな勉強をして、その中で堺BBを知り、今コーチをさせてもらっています。なので、ケガがなければ私は堺BBにいることもなければ、堺BBを知ることもなかったかもしれません。

「ケガ」と聞くといいイメージがないかも知れませんが、でもそこでできることを続けられれば、思いもよらない学び、楽しみが待っているのだと思います。今ケガで悩んでいる選手は、「今の自分に何ができるか？」を考え、行動してみしてほしいと思います。

コーチ 岩井 健一

2015年4月 堺BB小学部設立

小・中一貫指導開始

子供達の可能性を最大限引き出す！

堺ビッグボーイズから世界に羽ばたく人材を輩出します！

皆様、広報にご協力下さい。

詳しくは、お気軽に久富コーチまで！！

BB塾

無料体験実施中！

個別指導：10,000円/月～

場所：プロスペクト株式会社 3F

お問い合わせ：TEL.070-1218-8753

お気軽に岩井までお声掛けください！

